

# 新たな価値創造を実現するイノベーション拠点のデザインに関する研究

大阪芸術大学 建築学科 教授 門内 輝行

21世紀を迎えて近代社会や資本主義の行き詰まりが露呈しつつある。今日のデザインの重要な役割は、個々の人工物をつくるだけでなく、人工物相互の関係や人工物と人間・環境との関係を含むシステムをデザインし、豊かな生命と暮らしを育む環境・社会の創造に貢献することである。

筆者はそのように拡張されたデザインを「人間-環境系のデザイン」と呼び、その体系化を進めているが、本研究では工業社会から知識社会へ変化する過程で注目されているオフィスに焦点を結び、新たな価値創造を実現するワークプレイスのデザインを探求する。

知識社会では、自然との共生や人間相互の絆を大切にする持続可能な社会の構築することが課題となり、物質・製品の生産にとどまらず、情報・サービスを創出することが注目されている。そこでは新たな価値を創造するイノベーションが求められている。2016年から「日経ニューオフィス賞」の近畿ブロック審査委員長を務め、知識生産の場としてのワークプレイスの最新の動向に触れてきた蓄積を踏まえて、イノベーションを加速するワークプレイスとしてのオフィスのあり方を探ることが本研究の目的となる。

## 1. 人間-環境系としてのワークプレイス

19世紀の産業社会の中で始まったオフィスの歴史をたどりながら、人間と環境の関係性の中で発展してきたワークプレイスの進化する姿を描き出す。1960年代のアクションオフィスの段階からオフィスランドスケープ、コラボレーションが主題化されていることを確認する。その上で、人間-環境系のデザインの視点からワークプレイスを再定義し、知識社会におけるオフィスのデザインを探求した。

## 2. 企業・組織の資源の活用と将来ビジョンの実現

企業や組織は活用できる資源を踏まえて、組織の再編・統合を行い、将来ビジョンを実現する手段としてオフィスづくりを位置付けている。オフィスのデザインは、分散していた資源の集約によるシナジーの創出、社内外の交流を促すイノベーション拠点の構築、ビジネスモデルの刷新、企業価値の発信、新しい働き方の実現などと密接に関わっているのである。

## 3. オープンイノベーションとエコシステムの構築

組織内・組織間の協働、及び組織を超えた社会との共創に基づくオープンイノベーションのためのオフィスづくりが定着し、多様な試みが展開されている。研究開発やマネジメントなどの諸活動が融合し、組織内外の専門家や市民が出会うことでイノベーションが誘発される。多様なメンバーがつながり一体感を醸成できる空間、コミュニケーションラウンジや集中

エリアなど、多様な空間のデザインが展開されている。

さらに、立地特性や空間配置を活かしたビジネス生態系としてのエコシステムが注目されている。シェアオフィス、コワーキングスペース、ワーケーションなどのサードワークプレイスも定着し始めている。

## 4. 空間・環境のデザインパターン

フリーアドレス、ABW (Activity Based Working) などの空間・環境のデザインパターンが創造的なオフィスの実現に大きな役割を果たしている。日経ニューオフィス賞の審査を通じて、オフィスデザインの水準が大きく向上していると実感していることから、調査資料をもとにオフィスのデザインパターンの整理を試みた。具体的には「パターン・ランゲージ」の理論を踏まえて、デザインパターンを定式化した。

さらに、自然、都市・町・村、スタジアム、住宅等のメタファーが活用した空間構成、考える・つくる・試すといったサイクルを回すための空間構成など、パターンの組合せについても事例分析を行った。

## 5. ワークスタイルの変革 (ウェルビーイングやエンゲージメントの実現)

コスト削減、生産性・創造性の向上、優秀な人材の確保などを可能にする働き方改革が社会課題となっており、ABW やウェルネスといった働き方や健康に対する配慮が浸透し始めている。回遊性のあるプラン、アートやグリーンを設置、バイオフィリック・デザイン、サーカディアン照明、コンシェルジュサービスの導入など、多様な働き方を実現し、働く人のウェルビーイングやエンゲージメントを大切にする新しい働き方を可能にするオフィスの事例分析を行った。

## 6. コロナ後のワークプレイスのニューノーマル

コロナ禍の影響を踏まえて構想された新しいオフィスのプロトタイプが顕在化してきた。在宅ワークではできないコラボレーションを実践する場としてのオフィスのあり方を探求する試みが本格化しつつある。今後はテレワークの普及に伴う職住融合、DXの進化による分散型の都市構造など、オフィスのあり方が根幹から問い直される可能性があると考えられる。

## 7. 新たな価値創造を実現するワークプレイスのデザイン方法論の構築

以上を踏まえて、将来ビジョンの実現、オープンイノベーションとエコシステムの構築、空間・環境のデザインパターンの活用、ワークスタイルの変革などに配慮した、新たな価値創造を実現するワークプレイスのデザイン方法論の体系化を試みた。企業・組織・社会が直面する困難な課題の解決には、イノベーション拠点としてのオフィスのデザインが必須である。